

株主および投資家のみなさまへ

# Shimadzu Report

## 第147期 中間事業のご報告

平成21年4月1日～平成21年9月30日

株式会社 **島津製作所**

### 世界に支持される島津ブランド



## Contents

株主の皆様へ	1
業績の推移	2
事業の概要	3
トピックス	6
社長インタビュー	7
グループ会社紹介	10
連結決算の概要	11
単独決算の概要	13
会社概要・株式情報	14

※表紙写真の説明は、6頁をご覧ください。

# 株主の皆様へ

株主の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。  
ここに第147期上半期(平成21年4月1日から平成21年9月30日まで)の  
中間事業のご報告をお届けいたしますので、  
ご高覧賜りますようお願い申し上げます。

平成21年12月

代表取締役社長

中本 晃



## 当上半期の業績

当上半期におけるわが国経済は、輸出、生産、個人消費などに持ち直しの動きがみられるものの、民間設備投資の回復の大幅な遅れや雇用情勢の一層の悪化など、景気は厳しい状況が続きました。海外においては、中国では内需拡大策の効果もあり景気は回復しつつあり、米国および欧州では一部に底入れの動きがみられるものの、景気は深刻な状況が続きました。

このような情勢のもとで当社グループは、当期は新たな経済環境への対応期間として、利益の確保を目指し、売上規模の維持と総コスト削減の緊急施策を実施しています。同時に、3ヵ年**中期経営計画**の基本方針である**“世界に支持される島津ブランド”**の構築を目指して、**“マーケティング力強化”**による成長の持続と、確固たる収益基盤を構築するための機能・プロセス改革を進めています。

この結果、当上半期の業績につきましては、昨年来の国内外での需要の激減や急速な円高の進行等により、売上高は1,054億3千9百万円(前年同期比23%減)となり、営業利益は20億1千4百万円(同83%減)、経常利益は18億8千9百万円(同84%減)、中間純利益は11億9千8百万円(同85%減)となりました。

中間配当金につきましては、1株につき3円50銭とさせていただきます。

## 今後の見通し

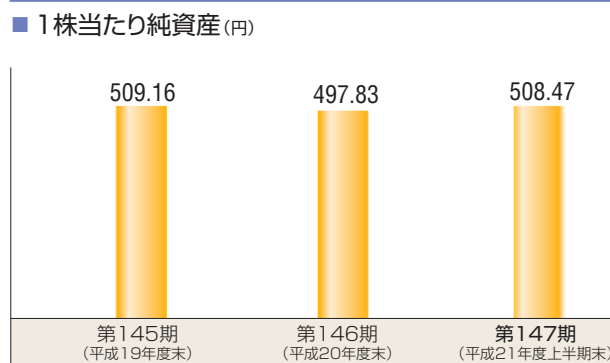
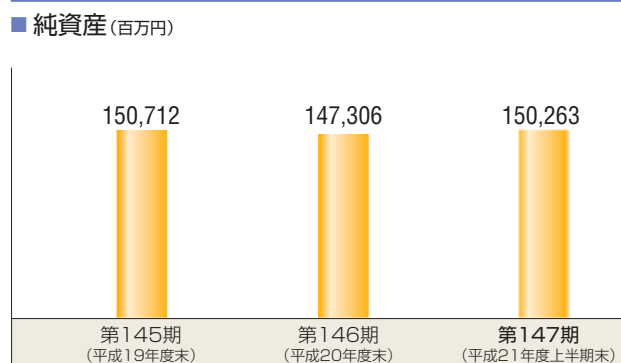
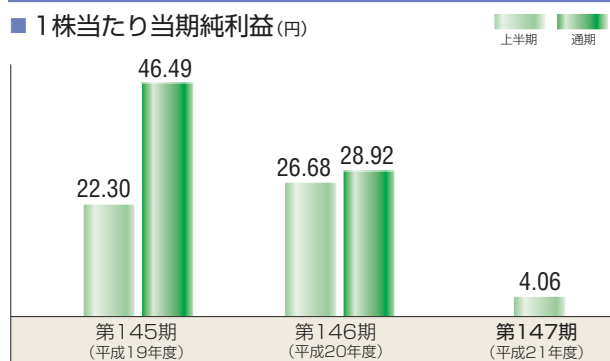
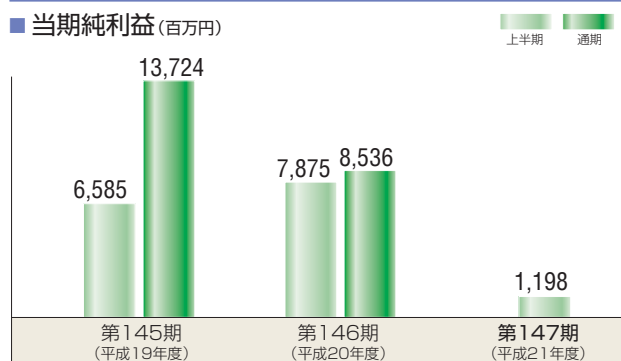
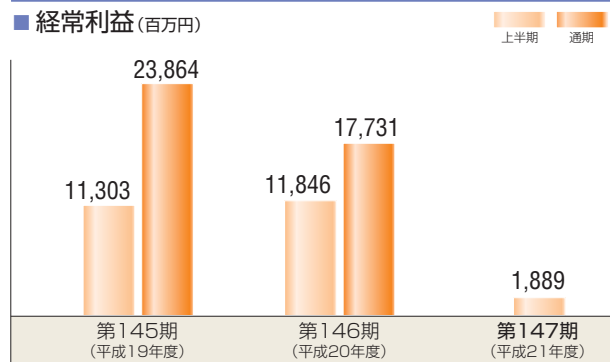
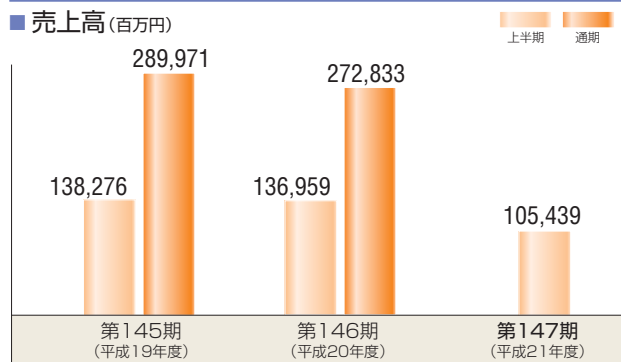
今後の見通しにつきましては、雇用情勢の悪化など依然として内外の景気は厳しい状況にあり、世界経済の先行きや為替の動向など、事業を取り巻く環境は引き続き先行き不透明な状況にありますが、各国の経済対策の効果も見え始め、景気回復の兆候が徐々に現れてきています。

このような経営環境のもとで当社グループは、当期は新たな経済環境への対応期間と位置付け、上半期からの総コスト削減の緊急施策の取り組みを下半期に更に徹底して押し進め、利益確保を図るとともに、補正予算など公共投資・財政出動への注力、中国のポリュームゾーン市場に向けた新製品の投入など成長する新興国市場での業容拡大、サービス事業の推進、安全安心・環境・クリーンエネルギーなどに関わる成長分野での事業の伸張に取り組み、売上規模の拡大を図ってまいります。

さらに、3ヵ年**中期経営計画**の基本方針である**“世界に支持される島津ブランド”**の構築を目指し、**“マーケティング力強化”**、次世代医療など**“新しい分野への事業展開”**、開発・生産・営業・サービス・物流の各面にわたる機能・プロセス改革を実行し、景気回復後の成長軌道にいち早く帰帰するための強力な事業基盤を粘り強く着実に築いてまいります。

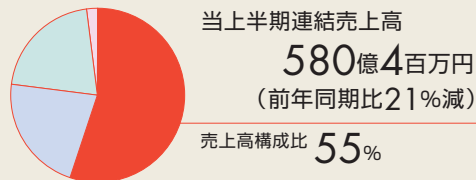
株主の皆様におかれましては、今後とも引き続きご支援を賜りますようお願い申し上げます。

# 業績の推移〈連結〉

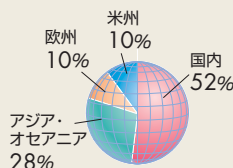


# 事業の概要

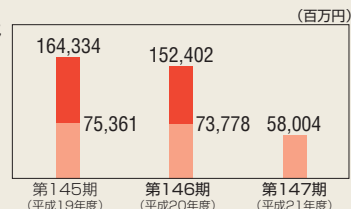
## 計測機器事業



### 地域別売上高構成比



### 売上高推移 (連結)



### 【概況】

- 国内市場は、官公需では補正予算関連の活発な動きがある一方、民間では昨年後半からの景気後退をうけて、設備投資抑制、研究開発投資抑制の動きが継続し、全体として売上は低調に推移しました。
- 主力の高速液体クロマトグラフは、製薬分野で前年並みとなったものの、全体として減少しました。質量分析計は、民間需要が低迷するなか補正予算関連で官公需は好調であったため、全体としては増加しました。ガスクロマトグラフは石油・化学分野などで、また、表面・組成分析機器、材料試験機、非破壊検査機器は自動車・電機分野で設備投資抑制の影響があり、大きく落ち込みました。光分析装置は新製品効果もあり、微減にとどまりました。
- 海外市場は、中国では上半期全体としては売上が減少したものの、政府の積極的な公共投資により、食品安全分野を中心に高速液体クロマトグラフ、質量分析計が拡大基調で推移しました。米国、欧州、中国以外のアジア地域では景気減速の影響が大きく、市況の回復が遅れており、低調に推移しました。

### 【今後の事業展開】

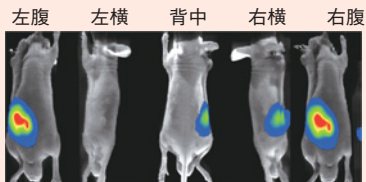
- 国内では、補正予算関連案件の取り込みに注力し、受注・売上の拡大を目指します。また、保守契約を中心としたアフターマーケット事業を収益の新たな柱ととらえ、サービス子会社と連携して一層の推進を図ります。なお、民間市場は市況回復を見越した設備投資が動きだすことが予想されることから、汎用分析装置を中心に拡販を目指します。
- 海外では、特に食品の安全や環境関連を中心に成長を維持する中国市場に注力し、現地開発・生産を拡大して中国国内ニーズへの対応を強化するとともに、新興国市場での拡販や、各国で行われている経済対策への対応により売上拡大を目指します。
- 今後も成長が見込める新エネルギー、ライフサイエンス関連などの新規分野において、マーケティング活動、アプリケーション開発への取り組みを進め、需要の創出に取り組んでいきます。

### 主な製品

ガスクロマトグラフ、高速液体クロマトグラフ、質量分析計、光分析装置、表面・組成分析機器、環境計測機器、材料試験機、非破壊検査機器、光学デバイス、レーザー機器、はかり

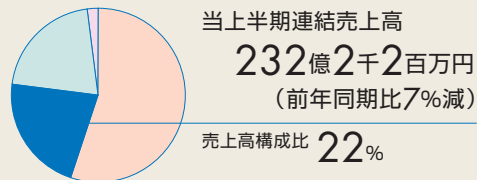
### 【トピックス】 早期診断・創薬支援に貢献する分子イメージング装置のラインアップ拡充

当社が長年培ってきた医用と分析計測の技術を活用した分子イメージング事業では、生体観察を可能とするPETシステムに加えて、今年9月に光イメージング装置、X線CTを新たにラインアップしました。基礎研究から創薬支援、臨床にわたる幅広いニーズに対応し、創薬プロセス改革、疾患の診断技術および治療の評価技術の開発に貢献していきます。

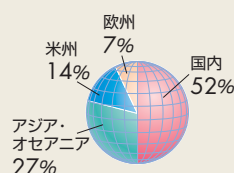


光イメージング装置による肝機能検査試薬の体内動態の観察  
(京都大学 医学研究科 近藤科江 先生との共同研究)

## 医用機器事業

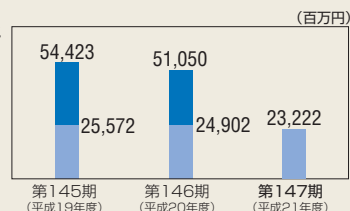


### 地域別売上高構成比



### 売上高推移 (連結)

■ 通期 ■ 上半期



### 【概況】

- 国内市場は、国公立・大学病院では需要が回復してきており、直接変換方式フラットパネル検出器 (FPD) 搭載の診断用X線装置も堅調に推移しましたが、民間病院は、厳しい経営環境が継続しており、全体として売上は微減となりました。
- 海外市場は、欧州では景気後退の影響で、また米国ではこれに加えて医療制度改革に伴う買い控えの影響もあり、市況が厳しく低調でした。一方、中国では政府の医療制度改革の施策に基づく医療体制の整備と医療保険制度改革で、病院の活発な設備投資が継続しており、売上が増加しました。また、中南米でも堅調な需要に支えられ、売上が増加しました。

### 主な製品

診断用X線装置、診断用核医学装置、医用X線CT装置、  
超音波画像診断装置、近赤外光イメージング装置、医療情報システム

### 【今後の事業展開】

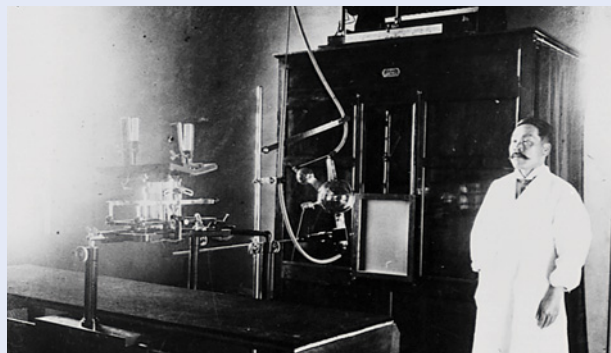
- 国内では、補正予算関連案件の獲得を目指すとともに、サービス事業の拡大に向けて子会社との連携を強化して、より付加価値の高いサービスを提供することにより売上拡大を目指します。
- トモシンセシス、エネルギーサブトラクション<sup>(※)</sup>など臨床の現場が求めるFPD用画像処理アプリケーションの開発を推し進め、競争力と特徴ある製品の充実を目指します。
- 海外では、中国および中東・中南米などで、拠点病院の積極活用によるブランドイメージ向上策を展開することにより拡販を目指します。

(※) トモシンセシス：FPDを活用したデジタル断層撮影機能

エネルギーサブトラクション：エネルギーの異なる2枚の画像の差分により、骨部だけ又は軟部組織だけの画像を得る手法

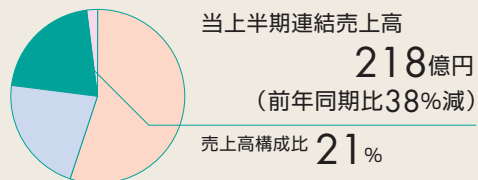
### 【トピックス】 国産初の医療用X線装置完成から100年

レントゲン博士によるX線発見のわずか11ヵ月後、1896 (明治29) 年10月に二代目島津源蔵はX線写真の撮影に成功しました。この日から日本におけるX線のパイオニアとしての歩みを始めた当社は、1909 (明治42) 年に国産初の医療用X線装置を完成しました。そのスピリットは今も変わることなく、高画質と低被ばく線量を実現した直接変換方式FPDを搭載した循環器用X線撮影システムを世界で初めて製品化するなど、医療現場に最新鋭X線画像診断装置を提供し、サポートしています。

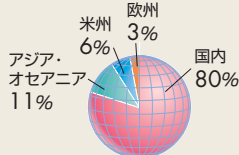


病院に納入された初期の医療用X線装置

## 航空・産業機器事業

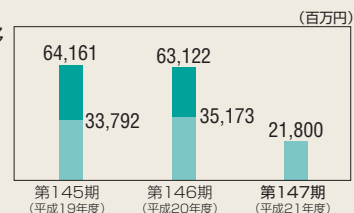


### 地域別売上高構成比



### 売上高推移 (連結)

通期 上半期



### 【概況】

- 航空機器は、国内市場では、主要戦闘機近代化改修などの売上が増加しましたが、防衛省向け次期固定翼哨戒機 (XP-1)、次期大型輸送機 (C-X) の試作機製品納入が前年で完了したことなどにより、全体では減少となりました。海外市場は、民間航空機需要の急減速により、売上は大きく減少しました。
- 産業機器では、ターボ分子ポンプは市況回復の兆しが見られるものの全体としては低迷し、また、太陽電池成膜装置は、太陽電池パネルの供給過剰による需給ギャップが解消されず、国内外の太陽電池パネルメーカーの設備投資は停滞し、売上は大きく減少しました。油圧機器は、主な需要先である建設機械や産業車両メーカーの在庫圧縮や生産調整のため、売上が大きく減少しました。

### 【今後の事業展開】

- 航空機器については、主要戦闘機近代化改修、およびP-1 (※) 量産に備えて、内製化設備の活用による搭載機器の品質とコストの改善に取り組みます。民間航空機関連については、ボーイング747-8型機用フラップ駆動システム主要構成機器等の納入や、米国での航空機搭載機器の修理サービス事業により事業拡大を目指します。  
(※) P-1 : XP-1の量産機
- 産業機器は、回復基調にある半導体、液晶関連の設備投資の進展に伴いターボ分子ポンプの売上増加が期待されます。また、太陽電池成膜装置は、生産ラインの効率化に寄与する新製品を海外市場へ展開します。

### 主な製品

航空機器：空調システム、飛行制御システム、ヘッドアップディスプレイ、ロケット用バルブ、航空機器機能試験装置

産業機器：ターボ分子ポンプ、液晶TFTアレイ検査装置、太陽電池成膜装置、液送機器、油圧機器

### 【トピックス】 ボーイング社の最新モデルに搭載するフラップ駆動システムを量産開始

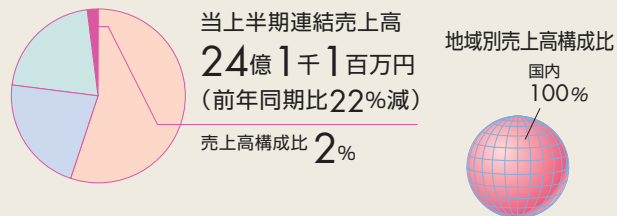
ボーイング社の最新モデルB747-8型機の離着陸を安全に制御する「フラップ駆動システム」の量産を開始しました。

今回当社はシステム評価を含めた主要部の開発全体を担当しており、システムメーカーとして大きな実績を作ることができました。この実績をもとに今後も民間航空機向けの事業拡大を目指します。



フラップ駆動部品の組み立て

### その他の事業



### 主な事業

不動産賃貸、不動産管理、ソフトウェア開発、製品設計、建設舗床業 等

# トピックス

## 第147期上半期の主なトピックス

平成21年(2009)

**4月** ■ 低価格ながら高性能クラスの性能と普及機なみの操作性を実現した材料試験機オートグラフAGS-Xシリーズ11機種を発売

■ 子どもたちに人気のアニメ「ポケットモンスターダイヤモンド・パール」のイラストを装置全面にあしらった小児用のデジタル式回診用X線撮影装置「MobileDaRt エボリューション Evolution」を発売



©Nintendo・Creatures・GAME FREAK・TV Tokyo・ShoPro・JR Kikaku ©Pokémon

**6月** ■ 本年4月に東京大学医科学研究所の客員教授に就任した当社田中耕一フェローが、質量分析を用いたタンパク質の動きを解析する手法の開発と医科学研究への応用を同研究所と共同で行うと発表

- 計測機器事業
- 医用機器事業
- 航空・産業機器事業
- その他

**7月** ■ 食品や医薬品、環境中の極微量分析を可能とする世界最高クラスの検出器感度を実現した高性能キャピラリガスクロマトグラフGC-2010 Plusを発売



GC-2010 Plus

■ タンパク質のより正確な分析と詳細な構造解析ができる質量分析計AXIMA Resonanceを発売

**8月** ■ 燃料電池の研究開発用として、発電時の酸素の消費状況をリアルタイムで把握できる世界初の装置「燃料電池酸素濃度可視化装置FC-O2 モニタ」を発売



## 抗体医薬品などの研究開発に貢献する質量分析計

表紙の製品は、今年7月に発売した質量分析計AXIMA Resonanceです。本装置は、抗体医薬品(\*)の研究分野など、需要が拡大しているタンパク質の糖鎖構造解析に最適なツールの一つとして、国内外で高く評価されています。

アクシマ レゾナンス  
AXIMA Resonance

(\*) 抗体医薬品：タンパク質の一種であるヒトの抗体を利用した医薬品



代表取締役社長 中本 晃

## いましてできない改革を。 先を見据えた確かな一歩を。

2009年6月に就任した中本晃社長。厳しい経済環境のなかで、どのようなかじ取りを考えているのか。経営方針・将来の展望を聞きました。

**Q** 社長就任後、厳しい経済環境が続きますが、現在の島津製作所の状況を聞かせてください。

**A** 景況悪化の影響はめぐるえないものの、この機をチャンスととらえてまい進していきます。

2008年秋のリーマン・ショック以降、世界経済は大きく縮小し、景気は急速に悪化しました。その後、落ち込みは一段落しましたが、いまま上向いたとは言えません。当社の事業を取り巻く環境も、当面は厳しい局面が続くと見ております。

しかし、いつまでも厳しいという言葉は免罪符にすることはできません。むしろ、業績が伸びているときには実践が難しい「いましてできないこと」を実行に

移す好機ととらえ、収益確保のために果敢に立ち向かっていきます。

**Q** 具体的な施策を教えてください。

**A** 経営体質の強化、新興国市場への注力、成長分野への重点化を進めます。

### ●より筋肉質な経営体質へ

まずはコストの一層の削減を図ります。この機会に「ぜい肉」ととことんまで絞り、過酷な経済状況下でも歩み続けられる強靱な体質をつくり上げる考えです。すでに4月以来、あらゆる事業部において削減候補となる経費・コストの洗い出しを行い、緊急施策の一環として、実行に移しています。

## ●新興国市場への注力

このような経済状況下でもBRICsに代表される新興国は成長を続けています。今後、これらの国は海外におけるボリュームゾーン市場となる可能性があります。各国の拠点整備を急ピッチで進め、その国の顧客に評価される製品の開発、さらにはサポート体制の構築を急ぎます。すでに中国においては、これらの施策が実を結び始めています。

## ●成長分野への重点化

消費が冷え込んでいる今も医薬品市場はそれほど大きく落ち込んでいません。また食の安全に対する危機意識も国内外で高まっており、価格は高くても安全であればそちらを選ぶという志向が強くなっています。

それに伴って、当社の分析機器、とりわけ創薬やその基盤となるライフサイエンス分野を支援する高い分析能力を有する装置群、また食品成分を分析する装置への期待もますます高まっています。一層の性能向上、使いやすさの向上、価格競争力の強化に力を注いでいきます。

**Q** 成長が見込める環境分野での取り組みを教えてください。

**A** 新エネルギー研究の支援装置や「グリーン購入」のニーズが追い風になります。

政府が掲げた「2020年までにCO<sub>2</sub>を25%削減」という目標は、当社にとってはチャンスになると考えて

います。当社は従来から燃料電池や太陽電池の研究・開発を行う顧客に対し、性能を評価する装置、あるいは製造工程の一部を担う装置を提供し、世界のクリーンエネルギー事業のサポート役としての任を務めています。新エネルギー利用をより後押しする政策が打ち出されれば、こうした製品の需要は一層高まるでしょう。

また、いわゆる「グリーン購入」のニーズがより高まることも追い風となります。これまで分析機器、医用機器などの開発に当たっては、高い分析能力、解像度、使いやすさなどが優先され、低消費電力化が顧みられることは、あまりありませんでした。しかし今後は、より消費電力の少ない機種への更新需要が高まるはずで、この機を逃すことなく、ニーズをとらえた製品で顧客の取り込みを強化していきます。



**Q** 島津製作所の強みについて聞かせてください。

**A** 最大の武器は技術力です。

当社の最大の武器は、なんといっても技術力です。これは創業以来変わることのない当社の核といえます。

私自身、技術者として当社へ入社し、先輩技術者たちの仕事に対する厳しさ、ひたむきさを肌で感じてきました。1980年代、私が主体となって液体クロマトグラフ事業を立ち上げたことがありました。いまなお、液体クロマトグラフは当社の主力製品の一つですが、高い性能はもちろん、顧客のニーズを製品づくりに反映するのにも、また、コスト削減を導くためにも、高い技術力の存在なくしては、なしえなかったでしょう。

当社の従業員には、人がやってないことをやってやるという気風があります。また、当社の製品が社会に



貢献しているという誇りを持って仕事をしています。こういった進取の気風と社員の仕事に対する誇りが当社の高い技術力を支えています。

今後も、経営環境が厳しくとも、必要な研究開発投資を削減する考えはありません。

技術力こそが、未来の当社を推進する原動力となる、そう確信しています。

**Q** 将来、島津をどのような会社に導いていくか、考えを聞かせてください。

**A** 島津の名を世界に浸透させていきます。

私は、島津というブランドを一人でも多くの方に認知していただけることが、もっとも重要だと認識しています。そのカギとなるのは、オンリーワン、ナンバーワンとなる製品を世に送り出すこと。世界で、その製品にしか提供できない機能があるということは、必ず評価につながるはずです。もちろん、それは当社の手前勝手なものではなく、顧客である企業や研究機関、病院等のユーザーのニーズを十分に踏まえたうえで、ソリューションとして提供されるものでなければなりません。

そうした製品を継続的に開発していくことができれば、おのずと当社製品のシェアは高まり、ブランドの認知は高まります。そのために、一つひとつの地域で、島津ブランドを着実に構築していきたいと考えています。

そして、いつの日か、世界中でだれもが島津という会社の名前を認知し、「そこにあるのが自然な会社」となっていればいい、と夢見ています。我々が取り組んでいる諸施策は、そのゴールへと続く一歩と私は考えています。

株主の皆様には、今後とも引き続きご支援を賜りますようお願い申し上げます。

# グループ会社紹介

## Vol.9

### 島根島津株式会社

- 本 社：島根県簸川郡斐川町
- 資 本 金：4億5千万円
- 年間売上高：42億円（2009年3月期）
- 従 業 員 数：142名（2009年9月30日現在）

中期経営計画では、「真のグローバル企業」を目指し、“世界に支持される島津ブランド”の構築を目標として掲げています。今回は、医用機器・産業機器を製造し、世界に通用するグローバル企業を目指して共に取り組んでいるグループ会社を紹介します。

#### Q. 島根島津はどんな会社？



**A.** 島根島津は、医用機器・産業機器関連製品の加工・溶接・塗装・組立を一貫生産で行う製造子会社で、1997年に設立されました。

島津グループの医用機器は、国内では京都の島津製作所三条工場（医用機器工場）と島根島津の二元体制で生産しており、このうち島根島津は、X線テレビシステム、X線一般撮影装置など汎用X線装置の主力工場の機能を担っています。



#### 新棟竣工により更なるコストダウン・納期短縮を目指す！

島根島津では、特色である一貫生産の特長を更に生かすため、昨年度より加工設備を増強し、生産コストの削減や製造リードタイムの短縮を図ってまいりました。更に今年8月には新棟を竣工し、汎用X線装置の製造を集約しました。また、新棟には島津グループの物流を担う島津ロジスティクスサービス、保守サービス等を担う島津メディカルシステムズ、島津製作所島根医用営業所が入居し、物流・販売・サービスの効率化も図ります。

今後は、汎用医用機器の一貫生産体制と物流体制の強化を実現し、お客様に満足いただける製品を提供してまいります。



島根島津本社工場内に完成した新棟



外科用X線テレビ装置

# 連結決算の概要

## 連結貸借対照表

(百万円)

	当上半期末 (平成21年9月30日)	前期末 (平成21年3月31日)		当上半期末 (平成21年9月30日)	前期末 (平成21年3月31日)
<b>資産の部</b>			<b>負債の部</b>		
流動資産	169,175	181,224	流動負債	73,928	96,429
現金及び預金	24,368	24,494	<b>説明 2</b> 支払手形及び買掛金	33,225	45,754
<b>説明 1</b> 受取手形及び売掛金	65,949	79,250	短期借入金	16,568	12,520
たな卸資産	69,837	68,733	1年内償還予定の社債	—	10,000
その他	10,034	9,752	その他	24,135	28,155
貸倒引当金	△ 1,014	△ 1,007			
固定資産	101,539	99,931	固定負債	46,523	37,419
有形固定資産	(68,444)	(67,608)	社債	10,000	10,000
建物及び構築物	33,933	32,413	長期借入金	12,373	2,120
機械装置及び運搬具	5,628	5,917	退職給付引当金	16,456	16,827
土地	18,845	18,808	その他	7,694	8,472
その他	10,036	10,468	負債合計	120,452	133,849
無形固定資産	(6,247)	(6,538)			
投資その他の資産	(26,848)	(25,784)	<b>純資産の部</b>		
投資有価証券	9,708	7,776	株主資本	154,714	154,855
長期貸付金	1,328	1,465	資本金	26,648	26,648
その他	16,039	16,733	資本剰余金	35,188	35,188
貸倒引当金	△ 228	△ 190	利益剰余金	93,512	93,641
			自己株式	△ 634	△ 623
			評価・換算差額等	△ 4,672	△ 7,944
			その他有価証券評価差額金	2,771	1,586
			為替換算調整勘定	△ 7,444	△ 9,530
			少数株主持分	221	395
資産合計	270,715	281,155	純資産合計	150,263	147,306
			負債純資産合計	270,715	281,155

### 説明 1 売上債権の減少

売上減に伴い、受取手形及び売掛金が133億円減少しました。

### 説明 2 仕入債務の減少

売上減に伴う仕入減により、支払手形及び買掛金が125億円減少しました。

### 説明 3 当上半期の業績状況(対前年同期比)

売上高が315億円減少したことに伴い、売上総利益は145億円減少し、営業利益、経常利益は各々100億円減少しました。また、中間純利益は67億円の減少となりました。

## 連結損益計算書

(百万円)

	当上半期 (平成21年4月1日～ 平成21年9月30日)	前上半期 (平成20年4月1日～ 平成20年9月30日)
説明③ 売上高	105,439	136,959
売上原価	65,468	82,459
説明③ 売上総利益	39,971	54,499
販売費及び一般管理費	37,956	42,453
説明③ 営業利益	2,014	12,046
営業外収益	811	956
営業外費用	935	1,155
説明③ 経常利益	1,889	11,846
特別利益	14	1,476
特別損失	90	2,081
税金等調整前中間純利益	1,813	11,241
法人税、住民税及び事業税	988	3,320
過年度法人税等戻入額	△ 389	—
法人税等調整額	11	40
少数株主利益	3	4
説明③ 中間純利益	1,198	7,875

## 連結キャッシュ・フロー計算書

(百万円)

	当上半期 (平成21年4月1日～ 平成21年9月30日)	前上半期 (平成20年4月1日～ 平成20年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,191	7,971
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 3,549	△ 5,294
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,770	△ 15,023
現金及び現金同等物に係る換算差額	621	△ 193
現金及び現金同等物の増減額(減少:△)	35	△ 12,540
現金及び現金同等物の期首残高	23,673	35,077
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	—	503
現金及び現金同等物の中間期末残高	23,708	23,039

## 連結株主資本等変動計算書

(百万円)

当上半期(平成21年4月1日～平成21年9月30日)

	株主資本					評価・換算差額等			少数株主 持分	純資産 合計
	資本金	資本 剰余金	利益 剰余金	自己株式	株主資本 合計	その他有価証券 評価差額金	為替換算 調整勘定	評価・換算 差額等合計		
前期末残高	26,648	35,188	93,641	△ 623	154,855	1,586	△ 9,530	△ 7,944	395	147,306
当中間期変動額										
剰余金の配当			△ 1,327		△ 1,327					△ 1,327
中間純利益			1,198		1,198					1,198
自己株式の取得				△ 10	△ 10					△ 10
株主資本以外の項目の当中間期変動額(純額)					—	1,185	2,086	3,271	△ 174	3,097
当中間期変動額合計	—	—	△ 129	△ 10	△ 140	1,185	2,086	3,271	△ 174	2,957
当中間期末残高	26,648	35,188	93,512	△ 634	154,714	2,771	△ 7,444	△ 4,672	221	150,263

# 単独決算の概要

## 貸借対照表

(百万円)

	当上半期末 (平成21年9月30日)	前期末 (平成21年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産	103,522	113,006
現金及び預金	4,245	3,999
受取手形	12,403	15,833
売掛金	32,390	36,085
たな卸資産	43,952	44,627
その他	10,703	12,639
貸倒引当金	△ 172	△ 179
固定資産	102,818	100,953
有形固定資産	(59,474)	(58,529)
建物及び構築物	30,851	29,500
機械及び器具等	8,310	8,692
土地	18,281	18,281
その他	2,030	2,055
無形固定資産	(5,347)	(5,608)
投資その他の資産	(37,996)	(36,815)
投資有価証券	9,341	7,428
関係会社株式	13,801	13,761
長期貸付金	1,429	1,578
その他	13,667	14,254
貸倒引当金	△ 243	△ 207
資産合計	206,340	213,960

## 負債の部

	当上半期末 (平成21年9月30日)	前期末 (平成21年3月31日)
流動負債	58,987	76,175
支払手形	459	871
買掛金	23,748	31,457
短期借入金	19,937	16,085
1年内償還予定の社債	—	10,000
未払金	8,863	10,034
その他	5,979	7,726
固定負債	36,887	28,041
社債	10,000	10,000
長期借入金	10,230	306
長期未払金	206	463
長期預り金	5,538	5,871
退職給付引当金	10,550	10,945
その他	362	455
負債合計	95,875	104,217
<b>純資産の部</b>		
株主資本	107,715	108,166
資本金	26,648	26,648
資本剰余金	35,188	35,188
利益剰余金	46,512	46,953
自己株式	△ 634	△ 623
評価・換算差額等	2,750	1,576
純資産合計	110,465	109,742
負債純資産合計	206,340	213,960

## 損益計算書

(百万円)

	当上半期 (平成21年4月1日～ 平成21年9月30日)	前上半期 (平成20年4月1日～ 平成20年9月30日)
売上高	62,285	83,536
売上原価	44,457	57,284
売上総利益	17,828	26,251
販売費及び一般管理費	19,808	21,791
営業利益(損失:△)	△ 1,980	4,460
営業外収益	2,755	3,457
営業外費用	1,159	1,275
経常利益(損失:△)	△ 383	6,642
特別利益	—	1,465
特別損失	72	1,790
税引前中間純利益(損失:△)	△ 456	6,316
法人税、住民税及び事業税	△ 234	543
過年度法人税等戻入額	△ 370	—
法人税等調整額	△ 739	797
中間純利益	887	4,976

# 会社概要 (平成21年9月30日現在)

## 会社概要

商号 株式会社島津製作所  
SHIMADZU CORPORATION  
創業 明治8年(1875年)3月  
設立 大正6年(1917年)9月  
本社所在地 〒604-8511  
京都市中京区西ノ京桑原町1番地  
電話075-823-1111(代表)  
資本金 26,648,899,574円  
従業員数 単独 3,197名 連結 9,674名  
連結子会社数 国内32社 海外44社

## 主要な事業所

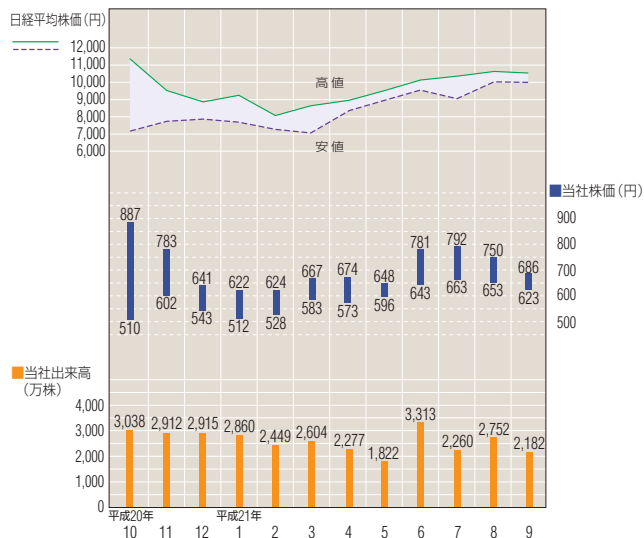
本社 京都市中京区西ノ京桑原町1番地  
支社 東京/関西(大阪市)  
支店 京都/九州(福岡市)/名古屋/横浜/  
北関東(さいたま市)/神戸/つくば/広島/  
東北(仙台市)/札幌/四国(高松市)/静岡  
工場 三条/紫野(いずれも京都市)/厚木/秦野/瀬田(大津市)  
研究所 基盤技術研究所(京都府精華町/東京都千代田区)  
田中耕一記念質量分析研究所(京都市)

# 株式情報 (平成21年9月30日現在)

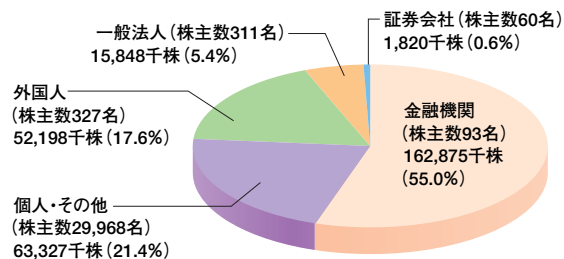
## 株式の状況

株主数…………… 30,759名  
発行済株式総数…………… 296,070,227株

## 株価の推移 (東京証券取引所)



## 株式の所有者別分布



## 大株主

株主名	持株数(千株)	出資比率(%)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社[信託口]	23,669	8.02
明治安田生命保険相互会社	21,130	7.16
日本マスタートラスト信託銀行株式会社[信託口]	20,618	6.99
東京海上日動火災保険株式会社	7,687	2.61
株式会社三菱東京UFJ銀行	7,672	2.60
太陽生命保険株式会社	7,411	2.51
全国共済農業協同組合連合会	7,267	2.46
日本生命保険相互会社	6,182	2.10
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社[信託口9]	5,382	1.82
株式会社京都銀行	4,922	1.67

\* 出資比率は、自己株式(986,763株)を控除して計算しております。

# 株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月に開催
基準日	定時株主総会、期末配当：毎年3月31日 中間配当：毎年9月30日 (その他必要ある場合は、公告のうえ設定します。)
公告方法	電子公告とし、当社ホームページ ( <a href="http://www.shimadzu.co.jp/aboutus/ir/kk.html">http://www.shimadzu.co.jp/aboutus/ir/kk.html</a> ) に掲載します。 ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告 による公告をすることができない場合は、京都新聞 および日本経済新聞に掲載します。

上場証券取引所	東京・大阪
株主名簿管理人および 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 電話(通話料無料)0120-094-777 (受付時間 土・日・祝祭日を除く9:00~17:00)

## 株式に関するお問合せ先

### 証券会社等の口座に記録された株式に関するお問合せ先

口座を開設されている証券会社等にお問合せ下さい。

### 特別口座に記録された株式に関するお問合せ先

三菱UFJ信託銀行(特別口座の口座管理機関)にお問合せ下さい。なお、三菱UFJ信託銀行全国本店でもお取次ぎいたします。

連絡先 三菱UFJ信託銀行株式会社大阪証券代行部 電話(通話料無料)0120-094-777(受付時間 土・日・祝祭日を除く9:00~17:00)

### 未払配当金のお支払いについて

三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

## 島津創業記念資料館のご案内

昭和50年、創業100周年記念事業の一環として創業者である初代および二代目島津源蔵の遺徳を偲び、当社創業の地、京都木屋町二条に開設。明治の創業から昭和の中頃までの理化学器械やX線装置ならびに事業活動に関連する文献・資料など約600点を展示、一般公開しています。



### 島津創業記念資料館(国の登録有形文化財)

建物は、創業当時のままの姿を残しています。

- 市バス 市役所前下車徒歩約2分
- 京阪電車 三条下車徒歩約7分
- 地下鉄東西線 市役所前2番出口下車徒歩約2分
- 京都駅からのアクセス  
市バス:205(四条河原町方面)、17系統乗車  
タクシー:約20分



〒604-0921 京都市中京区木屋町二条南

●TEL/075-255-0980 ●FAX/075-255-0985

●<http://www.shimadzu.co.jp/visionary/memorial-hall/>

キリトリ

島津創業記念資料館

株主様無料入館券

本券1枚につき4名様まで無料で入館いただけます。  
(平成22年9月末まで有効)

 SHIMADZU

<http://www.shimadzu.co.jp/>

●再生紙を使用しています。

DP050-0147A  
0220-10901-32B-NS